

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300593		
法人名	特定非営利活動法人ファインケア		
事業所名	いづみのグループホーム		
所在地	静岡県富士市今泉1丁目11番21号		
自己評価作成日	平成30年6月17日	評価結果市町村受理日	平成30年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiqyosyoCd=2292300593-00&PretCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成30年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に楽しく参加していただけるよう、レクリエーションを充実させ、職員一丸となり、力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上棟式には餅投げをおこない地域の一員として迎えられた開設から1年、「地区には民生委員が不在」という程、住民全てがその役割を担う吉原商店街の中に溶け込むことが運営推進会議を介して叶っています。特に和田町内会には手厚い支援を受け、町会の年間事業計画表には「これなら参加できますよ」と副会長自ら赤丸を付して下さり、また地域の防災訓練にも快く加えてもらっています。モダンな壁紙、1フロアに3箇所のトイレ、理髪用洗面台、専門業者が植栽の手入れをおこなう中庭デッキ、2箇所の館内放送等きめ細かな設備を配して過ごしやすく、また交通の便も良いことから「法事の帰りに～」と総勢7名での面会もある程です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年1回の社員総会、ホーム会議で、法人運営理念を共有し、実践しています。	職員が一同に会する場では法人理念を読み上げ、昨年7月に刷新した会社案内の冊子にも掲げています。第1号店から11年、本事業所が7棟目と成り、理念の実践も確かなことがフロアからも覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けたり、地域のお祭りに参加し、交流をはかっています。	吉原商店地区は商店街を基盤とした地域連携が昔から豊かで、吉原の歴史や文化溢れる行事が沢山あり、また地域包括支援センター、町内会からもアレコレ助言が上がり、馴染みのつきあいが叶っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、御家族様、来客者様に認知症について理解を深めていただけるよう、地域との交流の場をこれからも増やしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時、町内会長様、副会長様から地域の防災訓練、お祭りなどの事業計画の案内をいただいています。	「地区には民生委員が不在」という程、住民全てがその役割を担うような土地柄なことから、情報が飛び交い、今後の取組み予定も発表され、開設1年目とは思えないほど充実していることが議事録から伝わります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所介護保険課、地域包括支援センターの担当者をお招きし、情報をいただいています。	実施指導では書類や設備チェックのほかに、「職員と家族とのコミュニケーション」といった内容にまで及んでいて、丁寧に指導・示唆を受けることができ、事業所としても重点事項を改めて見直す機会となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の生活の自由を尊重し、各職種から成るチームケアを行うことで、身体拘束をなくす取組を行っています。	本件は運営推進会議も検討の場として位置付け、研修はホーム会議で実施して、管轄官庁の取決めに添うよう努めています。現状平均介護度1.7なこともあって職員が困ることはなく、何気なく「待ってて」と言ってしまうレベルの改善向上を目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、高齢者虐待防止について学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修で制度について学び、理解して、これからの支援につなげて行けるよう、知識を深めて行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者様、御家族様の立場に立ち、説明を行い、不安、疑問点を極力なくす努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様、御家族様の意見、要望をホーム会議、運営推進会議で話し合いの場を設け、改善に努めています。	「近隣からの入居であること」「アクセスがよいこと」が功奏し、家族の来訪が多くあります。また運営推進会議では家族、利用者本人から「～してほしい」といった意見が自然にでていることを議事録で確認しました。	家族会はないため、行事には家族を招くことを視野にいれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議で、職員一人一人の意見を聞き、管理者、ケアマネージャーが現場の声を汲み取っています。	会議では「必ず一言は～」と全員が発言することとしています。また幹部が同席するのが常で本来なら緊張してしまうところ、目線を下げて言いやすい雰囲気づくりをしていることから、忌憚のない意見も挙がっています。	管理者も現場に入り、日常的に意見の吸い上げはあるものの、改まったマンツーマンの機会(個人面談)が加わると、なお良いと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議で、各施設の職員の実績、努力を考慮し、やりがいを保てるよう、意欲を引き出せるよう、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	よりよい介護を行うため、研修に参加していただき、現場では、研修で学んだことを実践して、日々の介護につなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所やケアマネ協会の主催する研修会などで交流、意見交換をし、それをホーム会議にて職員にも説明することによりサービスの質を向上させる取り組みをしています。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時に御本人様が困っていること、不安なことをお聞きし、安心していただき、信頼関係を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に御家族様の御要望を聞き、いつでも相談していただけるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが相談受付のケアアセスメントを作成する際、課題の項目を設け、今必要とされる支援を見極め課題を作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の残存機能を生かして生活することを重点に置いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる御家族様と御本人様のコミュニケーション、御家族様と職員のコミュニケーションの中で、日々の御本人様の様子を知っていただけるよう、環境、雰囲気作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の御家族様、友人様、知人様、ご近所様、ご兄弟様が自由に面会出来る雰囲気作りに努めています。	コミュニティカの堅固な地域に支えられ、利用者はこれまでと変わらず地域行事に加わることができています。また家族の面会では自室でゆっくり過ごし、交通の便の良さから兄弟、友人の来訪も見られます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のレクリエーション、行事に皆様が参加していただけるよう、日頃から御利用者様どうしが、仲良く生活出来るように、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても、気軽に訪問、相談していただけるよう、協力出来ることは、支援出来るよう、体制を作っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	興味や、やってみたい事を引き出し、思いや意向に近づけるよう、努力しています。	レクリエーション一つとっても「塗り絵」「折り紙」「貼り絵」と選択肢を用意して、「独りポツンとならないように」「本人に選んでもらう」ということを大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり違う生活環境から、施設内の暮らしに慣れていただくため、御利用者様一人ひとりに副う暮らを支援できるよう、努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、朝の申し送り、職員同士が利用者様の様子、状況を情報交換し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様、御家族様、主治医からの意見を聞き、それに対して、職員がホーム会議で話し合い、介護計画作成に反映させています。	ホーム会議での協議を通じて内容把握に差はないものの、介護支援専門員(計画作成担当者兼)と管理者が主となって介護計画書を作成していて、「チームで～」ということには課題が残ります。	○×式の簡単な小テスト等何らかの方法で職員の係る知識が進むことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の申し送り、変化、気づきを申し送りノートや生活記録に記入し、報告・連絡・相談を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様に代わり、急な病院受診に職員が対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り、散歩の外出で地域の方とのかかわりを持ち、本人様が安全で楽しく暮らせる支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持つことにより、24時間、365日安心して、医療を受けられることを説明し、御本人様、御家族様に受け入れていただいています。	全員が在宅の頃からの医療施設から事業所の協力医に変更しています。医師に話しにくい軽度な症状や不安も映像(タブレット)で看護師によろず相談でき、速やかな対応と職員の安心につなげています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	御利用者様に変化がある際、管理者、職員より、看護師に伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報を提供し、退院時、状態説明に同席し、サマリー等必要な書類をお願いしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設1年足らずと言うこともあり、ターミナルケアを実施したことは無いが、御本人、御家族様と日々の談笑や面会時等に考え方を伺う努力をしている。	日頃から密に連携のある看護師も、また協力医も合意くださり、家族、本人の意向を第一として要望があれば取組む姿勢、考えはありますが、開設1年目ということもあって現在実績はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応時、マニュアルに副い、応急手当、処置をおこなっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震災害に備えて、訓練をおこなっています。避難経路をいつでも確認出来るよう、施設内にハザードマップを掲示しています。	法定訓練を遵守するほか、町内会からは今泉小学校までの徒歩避難にも入れてもらえることになっていて、地域連携・協働も徐々に進んでいます。備蓄庫はやや距離がありますが、法人一括で保管されています。	防災訓練には消防署の立ち合いを求め、設備の特長に基づいた留意点を明らかにしておく、なお良いと思います。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様の権利を守るため、生活を守るため、職員一人一人が、言動に気をつけています。	職員が「〇〇さん、いいですか」と声を掛けることが定着している事を視認しました。また排泄の確認など小声で言うことも身についていて、礼節をわきまえた対応が来ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様のやりたい事を御利用者様に決めてもらえるよう、希望を聞きながら、いろんな選択肢から選んでもらえるよう、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく、その方がどうやって過ごせたら、その人らしい生活ができるかを考えるよう、指導を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性、女性共季節に合う服装で、過ごしていただく。毎朝、整容を整える事に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が同じメニューを同じテーブルで召し上がります。また、行事企画で、普段と違うメニューを提供して、御利用者様に楽しんでいただいています。	業者から食材と献立表が届き日々手作りですが、家族から西瓜やメロン、水羊羹などの差し入れが途切れず、おやつは手作りとはならず嬉しい悩みがあります。蕎麦職人が年2回来訪してのお楽しみ行事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、1日のトータルの水分量を記録し、一人一人の食事量、水分量を把握し、栄養状態を確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯のケアを行っています。夕食後、就寝前は、義歯洗浄を行い、口腔状態を清潔に保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入することにより、日中、夜間の排泄パターンを知ることが出来、自立が持続できるように、支援をおこなっています。	ほとんどが自立ですが、数名「汚れの付着に気づかない」「パットの取り換え忘れがある」人もいるため、職員がよく見て、清潔に気持ち良く過ごせるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、下剤の服用を加減し、水分量を増やす、運動量を増やすことで、便秘を予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方、または嫌がる方がいます。安心して入浴していただけるよう、入浴が嫌いにならないよう、声掛けのタイミングに気を配っています。	壁紙は波模様で、凧の日の海岸にいるかのようで晴れやかな気持ちになります。浴室のタイルは富士山、事業所名が浮き彫りになるよう貼られ、ゆしきがある一方で機械浴や理髪用洗面台等ハード面も潤沢です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを崩さず、夜間、質の良い睡眠を摂れるよう、ご本人様の状態に合わせた休息の支援をおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情を確認し、病状と用量についても誤薬阻止のために、二人の職員でダブルチェックし服薬をおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜び、楽しみを感じていただけるよう、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、地域の行事に参加し、御利用者様と地域のつながりを持てるよう、外出の機会を増やしています。	冬場でもロゼシアターをはじめ近隣施設に車で出たり、散歩も駐車場を回る程度はおこない、季節などを理由にしない点は評価されます。未だ1年目のため手さぐり状態ですが、1度出向いた場所はよく検証し、次につなげていく考えです。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は保安上の問題もあり、原則施設にて管理させて頂いている。正し、御家族、職員との外出時等にはお返しし、買物を楽しんで頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くに住んでいて、普段会えない御家族様からの電話があると、喜んで、電話に出てお話をされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、フロア、共有スペースに物を置かない。明るく、清潔感ある室内と温度、湿度に気を配り、いつも快適な居住空間を心がけています。	リビングの円卓は2つに分けることができ、3箇所のテーブルではそれぞれ好みのことをして過ごさせています。七夕用の笹の葉や新聞紙等進んで家宅から持ち込む職員に囲まれて暮らせていることは何よりと、安心感を覚える空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、御利用者様どうしが共通の趣味や、和やかな雰囲気でお話ができるよう、席の配置に気を配っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、以前から使用していた生活用品を持ってきていただいております。使い慣れたものを使用することにより、居心地よい場所であるよう、くつろいでいただいております。	ドアを開けると、古(いにしえ)を感じる配色のカーテンが目飛び込みます。各室色を替えてあり、印象深いカラーなことから部屋を間違えないことにもつながるのではないかと察せられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な箇所があるか検証し、事故を未然に防ぎ、安全に生活できる環境に努めています。		